

平成23年度青年部活動指針

杵築市商工会青年部

部長 神田 毅

はじめに

昨今、杵築市の景気、経済状況は好転の兆しがなく、低迷期が続いている。3月の東日本大震災も災いし、浮上のきっかけを模索していても依然として厳しい状況に変わりはない。そこで地域の次世代を担う組織である商工会青年部では組織強化はもちろん、地域振興を積極的に推進し、地域活性化の原動力とならなければならない。そこで私は一定の方向性を「指針」として打ち出し、それに沿って、当任期中に役員以下、部員との「共通認識」を明確にし、事業を円滑に推進したく、次のようにお示しする。また、部長を中心としたトップダウンではなく、役員以下、部員からの意見を積極的に聞き入れ、全員で作り上げるといった意識で事業を推進し、当青年部の責任者として強いリーダーシップをとった組織作りに邁進するため、以下の二点を重点課題とし、推進していきたい。

人材の育成(資質向上)と組織強化

71名の青年部員を有する当青年部では、活動に対しての部員の温度差や参加メンバーの固定化、コミュニケーション不足といった問題が山積しており、情報の共有化が急務といえる。そこで参加意欲向上を図るため以下の工夫をしていきたい。

- 一、部員相互で「声掛け」による連絡体制の改革(網掛け式での声掛け)
- 一、他団体への協力強化(同じ方向性がある事業の協力体制を整える)
- 一、他団体との意見交流(お互いに共通認識をもって事業を推進する体制作り)
- 一、Face Book、メーリングリストといった情報ツールの積極的活用の推進
- 一、事業ごとに(会合ごとに)常に顧みながら次年度への課題を見出し、データを蓄積する

以上の事項と、机上だけの会合でなく、「人」と「人」との関係を大切と考え積極的な交流によって人脈強化に繋げ、青年部員同士のみならず、家業に生かせる組織としたい。

地域振興・発展の原動力

地域振興事業での成功の鍵は事前の準備につきると考えている。

地域振興には「ボランティア収益」の対比、「市内向け—市外向け」の対比の軸に分類できる。現状では「ボランティア」の要素が強いといえる。会合で意見を出し合うことによって、「やらされている感」から脱却し、市内各種事業に対する青年部としての関わり方や目的を明確にすることで、自分たちで「やっている」「事業を作り上げる」達成感や充実感を得ることを目指す。達成感を得ることで部員の「やる気」が向上し、生き生きとしたイベントへの対応を通じて、杵築の歴史や伝統、文化を意識した知識の習得しながら、商工会青年部ならではの「きつきブランド」と称した考え方を取り入れることで地域振興・発展の原動力となりうると考えている。

最後に

我々青年部は、活動を通じて信頼し、認め合い、意見を出し合うことで気づく、気づかせる発見を見出し、建設的な物事の考え方ができる場でありたい。地域のための活動に対して、目的を正しく捉えることで、その姿勢を伝えられる団体を目指し、各部員が常にその地域の先駆者となることで家業にとっても十分な財産となると確信している。